

# シグマ研究委員会 JENDL-1 積分評価 W.G.

## 1977年度第3回会合議事録

日時 1977年8月4日(木) 13:30 ~ 17:30  
場所 日本原子力研究所東海研究所 研2棟408号室  
出席者 菊池, 長谷川(原研), 飯島, 亀井(NAIG), 関, 宝珠山(MAPI),  
松延(住友), 瑞慶覧(PNC, 大竹代理)

配布資料 1. JENDL-1 詳細解析仕様書(I) 瑞慶覧

### 議事

#### 1. JENDL-1 詳細解析の仕様

配布資料に基き, 瑞慶覧氏より説明がなされ, それについて議論が行われた。

##### A. 目的

- 工学的モックアップ実験による信頼性の確認。
- 使用経験の蓄積により, JENDL-1 の普及を図る。
- 委員会の場での共同作業により情報交換を円滑にし, 効率化を図る。

##### B. 解析上の基本条件

- Method, Model の consistency を図る。
- conventional method と advanced method とを比較する。
- 解析結果の対比を容易にするよう mesh point 等を考慮する。

##### C. 結果の公開

- 本W.G.での討議してまとめた結果は, 本委員会から報告する。
- 追試, 再現を可能とする為に, 全ての情報を残す事が望ましいので, 公開できない number density 等は, 公開メモとして残すべきである。

##### D. 解析対象

瑞慶覧氏より, 対象項目と炉心の候補が挙げられたが, 時間の制約で結論が出ず次回へ持ち越された。

##### E. 計算モデル

以下の点について議論が集中した。

1) セル平均断面積計算法

- Wigners Equivalent Two Region Model, 積分輸送方程式,  $S_N$ 法と各社で流儀が異なる。
- 一つの体系でベンチマークテストをして比較する事になり, 詳細は次回に検討する。

2) 拡散係数

- Benoit の D を標準とする。

3) f-table 内挿法

- 各社で異なる方法が標準になっている。
- 方法の違いの結果に及ぼす影響を原研で検討する事になった。

4) 縮約方法

- 領域毎のスペクトルでの縮約, 体系平均のスペクトルでの縮約, 最初から 25 群で行く等の意見が出る。
- 体系平均のスペクトル縮約の妥当性をまずテストする事になった。
- 小数群の構造は Na resonance 等を考慮して ABBN型とは変えた方が良いので, その検討を MAPI, NAI G が次回までに行う。

次回会合

日 時: 8月22日(月)

場 所: 原研東京本部

議 題: 今回の続き